

2023年度 (全5回) HCTC分科会

(造血細胞移植コーディネーター)

第18回 Web Meeting

厚生労働省「造血幹細胞移植医療体制整備事業」
造血幹細胞移植推進拠点病院
南関東・甲信越ブロック地域連携事業

日時：令和5年9月22日（金）17:30～18:15

場所：参加者各施設（Web Meeting）

参加者：計29名（うち開催関係者；6名、オブザーバー；6名）、
施設（埼玉1・千葉3・神奈川6・東京5・静岡1・群馬1・沖縄1）

議 事

I 本日のテーマ：小児コーディネートにおけるHCTCの役割について考える

●1. 患児への関わり

*移植の説明、説明用の資材・ツール

ドナー用に年齢に合わせてプレパレーション形式で作成。移植適応になった地点でまず仲良くなることから始めている。小児コーディネートは年齢に応じて、患児一人ずつに合わせて作成している。

（キャラクター好みに合わせ兄弟の名前を入れつつ作成している。骨髄とは？移植とは？検査など入院から放射線室の写真を入れ退院までの患児の年齢に合わせて作成している。絵本や紙芝居で説明する。説明の時間は長い時間座って聞くことが難しいので第一弾5分、第二弾第三弾に分けて工夫して説明している。HLA検査はスワブ？採血？各施設によって異なります。痛い思いは極力少なくても良いのではとの意見もあり。自施設で検査の場合は採血、HLA研究所の場合はスワブが多い印象である。

*妊孕性の温存について

施設によっては主治医から直接話す。コーディネーターと両親が前もって話し合い、どのように説明するか相談をかさね家族からお話してもらおう。コーディネーターから説明するパターンなど様々である。年齢によっても理解できるかどうか難しい問題である。

●2. ドナー（候補者を含む）への関わり

*介入のタイミング、ドナーの両親との関わり、説明用の資材など移植適応であると判断されてから、両親と十分に話をかさねドナー用に年齢に合わせて同意書も一緒に作成している。絵本や紙芝居で説明する。

●3. 両親への関わり

*患児を抱えながらの生活、仕事（経済面）をどのように支えるか。

小児は医療費があまりかからないが、検査費用や両親の宿泊料など基金の紹介やソーシャルワーカーさんに繋ぐようにしている。コロナ禍で面会に制限があるが、面会に来れない両親を認めてサポートしていくことも重要である。コーディネーターや医療者の家族価値観を押し付けられないことも大切である。

*両親が移植治療を理解するための関わり

寄り添いながら何度もお話を続けることも大切である。家族が安心して話を聞けるような環境を作ることが必要。

●4. 事例から考える

①移植適応の可否の判断が難しいケースにおけるコーディネート

高校生の患者さんが移植を希望しない事例。障害や先天性疾患で血液疾患が疑われる患児コーディネート事例。移植を決めるのは、両親？患者？医療者？をどのようにコーディネートしていくか課題である。

②小児の採取を行っていない施設で、採取が必要になった場合

施設での対応が適切な年齢は？小児専門施設との連携（採取依頼）は可能か？施設を変えて採取ができる環境をどのようにつくるか、施設やコーディネーターとの連携方法も今後の課題である。

●5. 小児コーディネートにおける今後の情報共有

ブロックごとでは小児症例が少ないため、情報共有の場が欲しい。

II 次回のミーティング開催日時

2023年11月24日（金）17:30～18:15